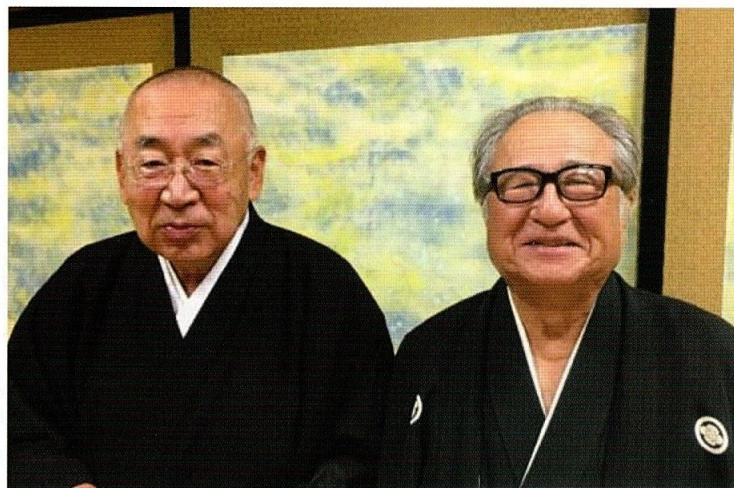




本光寺報恩講にて
右：能登さん 左：多田眞前住職

小松市本折町で大杉屋ふとん店を営んでいる能登清三さんは、同じ町内にある本光寺の総代の一人だ。

本光寺のおおよりこより

真宗大谷派（東本願寺）

小松教務所

〒923-0904

小松市小馬出町26

Tel 0761-22-0555

発行者 保木 悦雄

編集 小松教区教化委員会

本光寺の活動は多岐にわたるが、朝市や墓地の運営、お寺で葬儀を行う方のために多田眞前住職と一緒に病院からご遺体に移すなど、そのほとんどに関わっている。おあさじにもよくお参りし、時には前住職や

「一番尊敬している人は眞さんです」と能登さんは断言する。本光寺に関わるようになったのは、三十代半ばの頃、町内の集まりで付き合いのあつた前住職から、大晦日の年越しそばの手伝いを頼まれたことがきっかけだ。以後、本光寺の総代を務めて三十年ほどになる。「元々、信仰心もなかったし、お寺に行く気もありませんでした。あれもこれも眞さんから誘われて手伝っていくうち

お同行さん

～あなたの隣の門徒さん～

「自然とお寺が近くなってきました」

小松市本折町 能登 清三さん（72）

法務員と朝昼晩お寺で食事をとることもあるそうだ。

前住職とは好きなことを言い合える仲で、人生の半分を前住職と共にお寺に関わってきたと感慨深そうに振り返る。

に、自然とお寺が近くなってきました。こんな取材を受けるような高尚な人間ではありません」と能登さんは笑う。そう話す能登さんだが、子どもの頃からお寺は身近なもの

だった。能登さんは婿養子で、実家では月命日にお手次の住職が来て、お参りの後いつも祖父と住職は、碁を打ったり昼ご飯を食べたり晩酌までする間柄だった。それを見て育ったのでお寺は遠いものではなかった。今では能登さんも同じように、月命日には本光寺の法務員とお酒を酌み交わしているそうだ。

数年前から本光寺以外のお寺にもお参りするようになった。報恩講は十五、六カ寺も回る。「法話は聞けば聞くほど、いろいろな方のお話を聞いた方がいと感じます。よそのお寺は敷居が高いが、行ってみると思いがけない知り合いと会うこともあって、その人への理解も深まります」と、お寺を通じた新たな出会いが楽しみのこと。

能登さんのお話をお聞きし、共に仏法を聞く友達「法友」という言葉が浮かんだ。

広報委員

和楽 賢章



教区宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌テーマ

「出遇おう、ほんとうの」いのち」に！」

「私は何を【宗】として生きているのか？」

故 佐々木 五六氏

2020年3月、稱名寺（小松市西町）の住職・佐々木五六さんが亡くなりました。小松教区において教区運営、教化事業に多大な貢献をしてこられました。2012年に教区の宗祖七五〇回御遠忌を執行するにあたり、当時、教区会議長をされていた佐々木さんに寄稿いただいた文章を、追悼の思いを込めて、再度掲載いたします。

後生の一大事

「後生の一大事」という蓮如上人の言葉があります。「後生」という言葉は『サンスクリット語経典』に、

わたしが生まれたのはさとりを開くため、世間を利益するためである。これが輪廻における最後の生である。

とあるように、ながらく流転した最後の生命としての「後生」であります。そこに『大無量寿経』を「出世の大事」と説かれ

信心歡喜―本願成就―

た釈尊の教えを重ね合わせて受け取られた言葉が「後生の一大事」といふことが出来るように思います。とすれば御遠忌テーマの「いのち」とは「後生の一大事」を明かす使命をこそ「いのち―使命―」といただきたいと思えます。

『歎異抄』冒頭に「弥陀の誓願不思議に…」という言葉があります。何気なく読んでしまいがちですが、本来ならば「法蔵菩薩の誓

願」でありましょう。「たとい我」と始まり、一切の衆生がたすからない限りは「正覚を取らじ」と誓われたのは法蔵菩薩であります。にもかかわらず「弥陀の誓願」といわれるのは法蔵菩薩の誓願が成就していることをあらわしています。

同様に「弥陀の五劫思惟の願を案ずるに」という言葉もあります。これも「五劫思惟」は「法蔵菩薩の五劫思惟」であるにもかかわらず「弥陀の五劫思惟」と親鸞聖人御自身が語られたとあります。この言葉からも「誓願はただいま成就している」といふことが出来ます。

しかし「まだたすかつていない私がここににいるのに…」と疑問が起ころのは当然であります。このことについて蓬茨祖運先生が明確に答えておられます。

「ただ念仏といわれる言葉の我々の受け取り方は、我が身がまったく行きづまってなんの値打ちも感じられなくなった時に、念仏よりほかにないと、こういうてくる言葉になっておったのです。

人生に絶望しなければ法に生きられないと、こういうふうな話になってしまうのです。法を我々が了解できることによって、なんら望みのなかったところに自分が立つておったことが分かる」と。

本願が我が身のうえに成就するとは、智慧の念仏（正像末和讃）によつてあからさまな「身と世」を知ることのほかにないのであります。まさしく「罪惡深重」の自身の発見であります。善導大師の言葉に依るならば「機の深信」であります。私たちは自分自身しか信じるものがないのに、その自分自身を信じる事が出来ません。人から褒められれば「我こそは…」と反り返り、誇られれば「どうせ自分なんかは…」と落ち込む、そのような繰り返しを生きています。それは自己自身の本当の姿を知らないことに由るのであります。

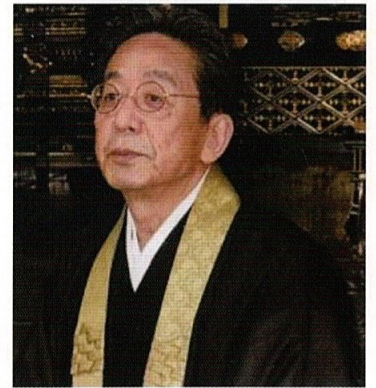
「経は鏡のごとし」と言われます。まさしく経のなかに自分の姿を聞くことが「機の深信」であります。機の深信によつて知られた自身を、親鸞聖人は「愚禿」とい

ただかれました。その「愚禿」と知らしめる智慧こそ本願成就であります。

信に死し、願に生きよ

本願成就文に「信心歓喜」とあります。『歎異抄』に、「念仏もうしそうらえども、踊躍歓喜のころおろそかにそうろうこと、またいそぎ浄土へまいりたきころのそうらわぬは、いかに」と唯円が疑問を起こされるのもここにあります。ただ、ここに言われる歓喜とは、煩惱をよるこぶ心ではなく、菩薩の位を明かす菩薩十地の初地・初歡喜地に立たしめられた歓喜でありましょう。親鸞聖人はこの初地をもつて不退の位（くらい）、とどまることのない歩みが約束された位と確められました。罪惡深重の身が、菩薩として歩むことになるというのでしょうか。

先の親鸞聖人七百回御遠忌において曾我量深先生が「信に死し、願に生きよ」と声高らかに



故 佐々木五右衛門 氏

に講演して下さいました。弥陀の本願によって自己自身の姿を信知した御恩には、同時にこの娑婆を背負って法蔵の本願を自らの本願として歩むことが要請されるということでしょう。そしてその歩みは曇鸞大師和讃に「普賢の徳を修するなり」とあります。「普賢の徳」とは浄土から敢えて出ていく精神をあらわします。つまり心地よい場所にとどまることを良しとせず、苦難の道を歩む孤独の精神であります。

同朋とは仲間になることではないでしょう。むしろ念仏なんて何の役に立つかと誇る人を同朋として心配することでしょう。そういう使命を担いでいた「いのち」と知ることが「ほんとうのいのちに出遇う」ことでしょう。

共同安危―五六さんを偲んで

西照寺 日野 賢之

御先代の佐々木近衛さんと、偶々、東本願寺同朋会館のお風呂場で一緒に折、「賢之君、三河（愛知県）の安藤哲君をしっているか。」と尋ねられました。大谷大学一回生の時の学生寮で一年間同期でした。「頭のいい、穏やかな、落ち着いたいい学生でしたよ。」とお返事しました。五六さんのお兄さんの事です。この会話が五六さんが称名寺さんに入寺される事に結びついたかはわかりませんが、実に不思議な御縁でありました。

その後、五六さんが称名寺へ入寺されて、時折どうにも嫌なことがあると、「僕が小松へ来て、こんな目に遭わねばならないのは、日野さんが兄を褒めたからだ」と、少し腹を立てながら、少し笑いながら言われる言葉を何度も聞かされました。

五六さんをいろんな面で、本当にうらやましいと思うことがありました。それは五六さんが大谷派の中でも、安田理深師、和田稠師、藤元正樹師などのお話を直接聞く機会に恵まれ、学んでこられたということです。ですから、教学的知識というよりも、教学について語られる様々な方々のお話の内容について、直感的にその不十分な点、曖昧な点を指摘する事ができる《感性》をもっていた人でした。私自身、五六さんから幾度も指摘されて、その鋭さに背筋が寒くなった事もありました。

蓮如上人に始まる相伝教学の学習会が城端別院で行われた折、小松教区の相伝学習会で学び続けてこられた五六さんが書かれた報告文は、実に難しいことを難しいが故に、実に楽しそうに書かれていたと。これもまた羨ましい事でした。

簡単に五六さんの跡を継げる者は居ないということでしょう。続きを独りで学ぶことは、なかなか困難な事です、五六さん。

【教区教化事業のご案内】

「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴う対応等により、急遽変更される場合があります。

◇十二日講

毎月十二日午前9時半～

3月は連如上人御忌法要と兼修

【1月】柿原秀芳氏（小松教区寶海寺）

【2月】大窪康充氏（金沢教区浄土寺）

【3月】加藤彰教氏（小松教区林西寺）

【4月】林 拓氏（小松教区誓立寺）

◇日曜講座

毎月第1、3日曜日

午前9時半～

【1月】17日

【2月】7日、21日

【3月】7日、21日

【4月】4日、18日

◇いのちを育むプロジェクト

修正会

1月11日午後1時半～3時

◇社会教化研修会

2月20日・27日

午後2時～4時

テーマ 親鸞と七高僧

講師 藤原智氏（教学研究所助手）

右記会場すべて

常磐会館（小松教務所）

郡中の小窓

皆さんは、『Yahoo!ニュース』を見られたことはありますか。『Yahoo!ニュース』とは、インターネットでニュースを読めるサービスの一つです。記事を読めるにあたって、ある決まりがあるといえます。それは「見出しは十三文字以内で」というものです。多くの人に読んでもらうために、短い言葉に情報を凝縮させているそうです。

Yahoo!ニュースでは、記事の本文を読まなくても、見出しだけは目に入る仕組みになっています。そのため、十三文字の見出しの「つかみ」で、すべて分かった気になったり、誤解したりする危険性もあります。

同じように、教えを聞くときも気をつけなければいけません。例えば、『歎異抄』は誤解されやすい文章です。第三章では、冒頭に「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」と、悪人が救われることを言います。その一文だけをみれば

「悪人が救われるなら悪いことをしてもオケケ」という捉え方になる人もいるでしょうし、いたはずです。全文をしっかり読めば、それは誤解だと分かるのですが、まさに『歎異抄』の序文にもある、「自見の覚悟を以て（自分勝手な思い込みで）」読んでしまうことの怖さです。私たちには、言葉を自分の解釈に当てはめて、すべて分かった気になってしまう危うさがあるのです。

いま一度親鸞聖人のお言葉そのものとじっくり向かい合って、聖人の「お心」に思いを馳せてみるのも大事なことはないでしょうか。

小松教区教学研究員

『郡中学舎』研究員 新康紀



【編集後記】現在、小松教区教学研究員「郡中学舎」から、日頃学んでおられる真宗の教えを聞きひらいていただくために、「真宗Q&A」に一筆寄稿いただいております。今号からは、Q&Aに限らず、広くテーマを設け「郡中の小窓」として掲載いたします。▼『大寄小寄』40号の発行は、小松教区ホームページのリメイクに取り組んでいたため、随分遅れてしまいました。近日、新ホームページを公開いたしますので、ぜひご覧ください。（森本）

門首継承式動画配信

24年の長きにわたり門首の任にあつた大谷暢顯門首（現・前門）が退任され、大谷暢裕門首が、真宗大谷派第26代門首に就任しました。2020年11月20日に執り行われた門首継承式がYouTubeにて動画配信されております。QRコードよりごらんいただくか、「真宗大谷派門首継承式」で検索を！

東本願寺

ライブ配信

真宗大谷派 門首継承式

11月20日(金) 10:00～ 配信予定

QRはこちら！